

東上総教育事務所だより



茂原市・掩体壕



九十九里浜

〒297-0024 茂原市八千代 2-10
千葉県教育庁東上総教育事務所
TEL 0475-23-8125 FAX 0475-25-3143
第3号 令和4年10月28日(金)発行

総務課より

各種届出について



届出内容に変更が生じた場合は、その都度速やかに事務職員へ申し出てください。

【具体的な例】

- 通勤手当・・・通勤方法や通勤経路の変更があった など
- 扶養手当・・・扶養している者が別居・同居することになった、就職・退職した、雇用条件が変わった、年金等を受給することになった など
- 住居手当・・・家賃の増減、契約更新、引っ越しをした など

指導室より

特別支援アドバイザー・学校人権教育の案内

◇特別支援アドバイザーについて

東上総教育事務所では、管内各学校(園)からの要請に応じて、特別支援アドバイザーを派遣し、特別な教育的支援を必要とする幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた指導・支援の在り方などについて、教職員、特別支援教育支援員などに対し、助言・援助を行っています。

派遣の種類は、発達障害を含む障害のある子どもへの指導・支援の在り方について、教職員などに助言・援助を行う「通常派遣」と、各学校などでの研修会講師や相談活動などのための「研修派遣」があります。なお、4月に限定し、特別支援学級新担任・通級指導教室新担当・経験年数の浅い先生方を対象にした「4月限定派遣」を行っています。毎年度末(3月頃)に、申請の案内を配付しています。

<特別支援アドバイザーの派遣期間>

第2期:9月~12月
第3期:1月~3月上旬

※学校から各市町村教委への派遣要請書の提出期間は決まっていますが、申請期間外であっても要望がある場合は、事前に電話などで御問い合わせください。

※短縮日課や長期休業(夏季・冬季)の期間においても、校内研修などの講師として派遣(研修等派遣)します。ぜひ、御活用ください。

◇学校人権教育について

公立幼稚園・小学校・中学校の担当者を対象とした、令和4年度学校人権教育研究協議会地区別協議会を、6月8日(水)にオンラインで実施しました。事前に千葉県教育庁教育振興部児童生徒安全課人権教育班が作成した動画を視聴し、千葉県の学校人権教育の推進目標や現状、課題などを把握していただいた上での参加といたしました。当日は、昨年度の本協議会で好評をいただいた、(株)情報文化総合研究所の佐藤佳弘先生による「インターネットと人権」をテーマとした講義を、本年度も引き続き行いました。SNS上でのトラブルやいじめなどの防止策、起こってしまった問題への対応などについてお話をいただきました。また、東上総教育事務所のSSWである小幡朋子先生より、近年、テレビや新聞などで取り上げられている「ヤングケアラー」や「児童虐待」について、子どもの権利を守るために私たちができることを教えていただきました。講義終了後には、オンライン上でグループを作り、グループ毎にテーマを設けて協議を行いました。本協議会に参加された担当者の皆様には、ぜひ校内で情報共有をしていただき、学校人権教育の更なる推進への御協力をお願いいたします。

【本協議会に参加された担当者の感想】

- ・ヤングケアラーは本人自身も気付いていない場合が多いと初めて聞いた。アンテナを高くし、児童一人一人の声や様子を細かく把握して気付いてあげられる教師でありたいと感じた。
- ・ネットいじめについては、学校現場の教育だけでは対応に限界があることを知った。保護者にも情報提供をし、連携を進めていきたい。
- ・グループ協議で、学校全体として人権意識を高める取組について参考になる事例を知ることができ、有意義な時間となった。



令和4年度「全国学力・学習状況調査」の結果について

令和4年4月19日(火)に、国・公・私立学校の小学校第6学年、中学校第3学年の全児童生徒を対象に「全国学力・学習状況調査」が実施されました。今年度の「教科に関する調査」は、例年の国語と算数・数学に加えて理科が実施されました。本県の調査結果は以下のとおりです。

教科の傾向と課題（東上総管内）

小学校、中学校ともに3教科とも全国平均を下回る結果となりました。特に、記述式問題において、正答率が低く、無答率が高いことに課題が見られ、これは、経年課題となっています。

今年度は、各教科ともICTの活用場面からの問題が出題されました。そこでは、「探究する力」を問う問題の正答率が低いことも明らかになりました。

国語科

※小・中共通の課題

- ①3領域の中で「書くこと」の正答率が一番低く、「読むこと」では、全国平均との差が一番大きい状況が見られました。「どのように書くのか、どのように読むのか」といった言葉による見方・考え方を働かせた視点をもって授業改善に向かうことが必要です。
- ②過去に2回出題された問題と関連のある問題の正答率が依然として低い結果が見られました。授業アイデア例などを参考にして、実態に応じた授業改善に取り組みましょう。

算数・数学科

- ①数学的に説明することに課題が見られたことから、結果や方法の見通しをもたせ、与えられた条件を整理して考える「思考の場」を位置付けていくことが重要です。
- ②基本的な知識・技能を問う問題で、正答率が低く、全国平均と比較したときの差が大きい設問が複数ありました。改めて基礎・基本の定着を図るとともに、日常の具体的な場面と結び付けた問題を設定し、習得した知識・技能を実際の問題解決に活用することを意識して授業改善に取り組みましょう。

理科

- ①「エネルギー」領域の正答率が低かった原因は、知識の概念的な理解と、日常生活との結び付きが不十分であることが挙げられます。主体的に知識を習得できるようにしたり、習得した知識を実際の事物・現象と関連付けたりするために、タブレットや映像教材など、ICTを活用して、自ら説明できるようにすることが重要です。
- ②記述式問題の結果から、自分の考えをまとめる力や条件を示された状況での記述の習慣が、十分に身に付いていないことがわかりました。自分や他者の気付きを捉え、差異点や共通点を基に問題を見いだす場面を設定したり、学習の動機付けとして、理科の一番の面白さをもつ方法立案の場面を設定することを短時間でも授業に組み込んだりしてみましょう。

公立学校(千葉市を除く)の平均正答率【%】

小学校	自校	千葉県	全国
国語		66.0	65.6
算数		63.0	63.2
理科		63.0	63.3
中学校	自校	千葉県	全国
国語		68.0	69.0
数学		50.0	51.4
理科		48.0	49.3

※自校の結果を入れてみましょう。



児童生徒質問紙及び学校質問紙

- ①家庭学習の時間が少なく、自分で計画を立てて勉強をすることに課題が見られました。家庭学習時間と平均正答率には、強い相関が見られます。家庭学習の啓発と推進を工夫して取り組む必要があります。
- ②ICT活用に関する質問項目の肯定的回答率が全国平均を下回る結果が見られました。各教科において、ICTの効果的な活用を図る授業づくりの推進を学校全体で取り組む必要があります。

学力向上に向けた授業改善について

学力向上に向けて、日々の授業改善が何よりも重要です。今年度の学力調査問題を全職員で解いていただけましたでしょうか。調査問題には、「今、求められている力」が示されています。そして、調査結果の分析・考察を全職員で共通理解を図ることが大切です。

学力向上対策については、文部科学省・国立教育政策研究所や千葉県総合教育センターから出されている「分析結果報告書」「授業アイデア例」「学力向上の手引き」など、Webサイトも含め是非御活用ください。

☆こちらのQRコードから、直接アクセスできます！

